

## 3. 中1 野外学習「グループ別市内見学」の実践

田 中 裕 巳

### はじめに

本校では、中1での野外学習を開始してからもう20年近くなろうとしている。自分達の生活している郷土の歴史や地理を、自分の目を見て、手で触れて、直接体験させることがねらいである。この間、三好の工業団地、瀬戸の陶土の採掘現場・歴史民俗資料館、有松の絞りや古い家並、知多の火力発電所、名古屋港、千本松原の治水史跡、長者町繊維問屋街などなど、実に多くのフィールドで野外学習を実践してきた。それなりに多くの成果を得てきたと思うが、社会科のフィールドワークの実践としては、やや物足りなさを教師側は感じて来た。2台のバスを連ねて全員で見学という方法では、どうしても生徒の学習の姿勢が受身になってしまうというのが最大の問題点であった。

中学3年生の修学旅行(高山)、高1の林間学校(高根村)、高2の研究旅行(京都、萩、松山など)では、現地でのグループ別の研究活動を実践してきた歴史を持っている。中1でも出来ないはずがないという見通しと、フィールドワークの手法を自分の住んでいる街でも経験しておく必要があるという考えから、もう数年前から、今回の試みについて社会科の教師達では話し合ってきた。近年、市内の公立中学のいくつか(猪高中、城山中など)が実際に取り組み始め、小規模校の本校で出来ないはずがないと、はっぱを掛けられた感じになった。今回、中1の担任団からも、この取り組みへの賛同、協力が得られ、本校としては初めての中1でのグループ別野外学習が実現したという次第である。

### 1. 準備段階

社会科の5人で、3月4日の実施に向けて、計画の概略の検討に入ったのは、2学期の終わりであった。5～6名のグループによる見学、660円の地下鉄・市バス一日乗車券を利用して回れる範囲内、午前と午後各一か所を見学する、という前提で、各自が冬休みを利用して見学の候補地を考えることが宿題となった。

年が明けて、5人が教科科目の専門性に踏まえながらコースを出し合い、週1回の教科の科会で検討を重

ねた。1月28日の会議に提出された野外学習実施のための基本方針「中1 社会科野外学習の実施にあたって」では、次のようなテーマとコースが提示された。

### 【資料1】

中1 社会科野外学習の実施にあたって

1988. 1. 28  
社会科

#### 1. 今年度の実施方針

貸切りバスでの見学をやめ、グループ中心のテーマ学習とする。出来るだけテーマ、コースなどを自主的に決定させ、事前研究、聞き取り調査、レポートの作成を義務づける。テーマや調査方法などについての指導は主に社会科の5人で当たる。

郷土学習と言うことで、フィールドを名古屋市内に限定し、地下鉄・市バス一日乗車券を全員に事前に渡す。地理歴史に限らず、公民的分野の内容も可とする。

#### 2. 全体テーマ「私たちの住む街・名古屋のあゆみ」

名古屋を、出来るだけ歴史的地理的に、更に、政治・経済・社会や、地学などの側面からも総合的にとらえることを第1のねらいとする。現在の名古屋市域を中心としながら、居住空間の歴史的拡大、生活様式の変化などをつかませい。

#### 3. 各班のテーマ

午前午後最低各1箇所を見学することを原則とする。午前午後は出来るだけ関連のあるほうが望ましいがあえてこだわらなくても良い。下記のテーマを参考として示したい。

- ①見晴台遺跡から探る名古屋(見晴台→笠寺観音→大曲遺跡)
- ②尾張と熱田神宮(熱田神宮→七里の渡し→裁断橋→断夫山、白鳥古墳)
- ③城下町名古屋の形成(名古屋城→堀川→五条橋→四間道→松坂屋)
- ④近世の寺社と民間信仰(大須観音、万松寺→栄国寺、切支丹遺蹟博物館)
- ⑤日泰寺をたずねて(日泰寺の由来、橘宗一郎の墓碑など)

- ⑥鶴舞公園と近代史(鶴舞公園の歴史, 市電焼き打ち事件, 米騒動, 普選壇など)
- ⑦東山動物園——戦争と動物(殺された動物達, ぞうれっしゃなど)
- ⑧名古屋大空襲(愛知時計→平和地蔵, 女子挺身隊の生存者の話など)
- ⑨名古屋港の歴史(管理組合→埋立地をたずねて)
- ⑩中川運河の歴史(運河の歴史と将来, 閘門の役割)
- ⑪市民の暮しと公害問題(市交通局, 高速道路反対同盟, 公害研究所など)
- ⑫問屋街を歩く(長者町織維問屋街→明道町菓子問屋街など)
- ⑬名古屋の地下街(栄地下と名駅地下との比較, その他金山, 今池など)
- ⑭名古屋の水問題(鍋屋上野浄水場, 堀留污水处理場など)
- ⑮名古屋のごみ処理問題(山田ごみ処理場, みなみ共同作業所など)
- ⑯老人ホームをたずねて(町並みの変化, 名古屋空襲の体験, 終戦直後の生活などの聞き取り)
- ⑰新聞社をたずねて(名古屋の新聞の歴史, 取材体制など)
- ⑱大須と現代(大須事件, 大須演芸場など)

他にも良いテーマ, コースが有りましたらお知らせ下さい。

#### 4. 実施方法

##### (1) 担任団との関係

内容的な指導は主に社会科で担当するが, 班編成, テーマ決定, 事前指導, 調査のまとめなどの段階では担任の協力が必要。また実施日には社会科5名と担任団の計8名で取り組む予定。

##### (2) 準備

- 2月第1週(6日まで) 班員決定 各クラス6班  
編成(1班7~8名)
- 第2週(13日まで) 班のテーマ決定
- 第3週(20日まで) 事前調査 訪問場所の決定, 依頼書発送, 所要時間を調べる
- 第4週(27日まで) 〃 しおり作成
- 3月3日(木) 試験最終日 事前指導 諸注意を中心に(AB合同)

##### (3) 実施日

- 3月4日(金) 集合 数カ所に8時半集合(場所は未定) 点呼。

- 連絡 教官室を緊急連絡場所とし, 12時半前後に必ず電話を入れさせる。原先生は終日待機(中の合格発表有り)。
- 昼食 弁当持参 場所は事前に決めておく。
- 解散 集合と同様 3時

#### (4) 事後指導

- 3月12日(土)までに 清書原稿提出, チェック, 印刷, 製本のうえ, 新学年社会科地理の郷土学習で使用

上記の実施概要を教官会議に報告した後, 生徒達の班編成が行われた。A組では既成の生活班をそのまま当て, B組ではまったく別個のものを作るという方針が, 学級担任の判断で行われた。

2月8日(月)の生徒活動の時間には, 両クラスとも, 野外学習に向けての最初の班別ミーティングがもたれた。次の【資料2】が配付され, 班の係り分担決定, テーマの希望提出などが相談された。

#### 【資料2】

##### 野外学習ノートI

中1( )組( )番( )

##### 1. 班の係り分担決定

- 班 長 ( ) 全体のまとめ役, とくに会計・研究を補助
- 副班長 ( ) 班長を助ける, とくに記録・交通を補助
- 会 計 ( ) 入場料・入館料などの支払, 計算
- 研 究 ( ) 資料集め, 報告書の作成
- 〃 ( ) 〃
- 記 録 ( ) インタビューの録音
- 〃 ( ) 写真
- 交 通 ( ) 時計係, 時刻表などを調べる
- 保 健(副班長) ( ) 応急手当

※保健係は副班長が兼任する。

7人の班では研究か記録を1人とする。

##### 2. 班の野外学習での目標5箇条

- ①
- ②
- ③
- ④

⑤

3. 班の野外学習テーマ決定

①各班員の希望テーマ

それぞれ希望の理由を述べる。

名 前	希 望 テ ー マ
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )
( ) ( )	( )

②テーマの決定に関して討論されたこと

③班の希望テーマ

第1希望

第2希望

参考テーマ

略(【資料1】の3, 各班のテーマに示されたものと同じ)

この資料をもとに、生徒達の熱心な話し合いが行われた。「例年と違って班別の野外学習に取り組むのは、君達を信頼しているからだ」という注意は、その後も教師側から何度も言われたが、そうして生徒達の自覚は次第に高まって行った。

各班のテーマの決定に当たっては、歴史を中心としたもの(①~⑧)、地理を中心としたもの(⑨~⑬)、公民的分野を中心としたもの(⑭~⑱)からそれぞれ1つずつを選択させた。また①~⑱以外にどうしても行きたい所のある班は「その他」としてそれも可とし、順位をつけて希望を提出させた。

2月8日の生徒活動の時間での話し合いを第1回として、田中と丸山が地理と歴史の時間をそれぞれ一回づつあてて、班毎の話し合いを持たせた。その結果、両クラスの計12の班の希望テーマは次のように出そろった。

A組

- 1班 ①見晴台遺跡, ⑫問屋街を歩く, ⑰新聞社
- 2班 ⑦東山動物園, ⑬地下街, ⑯老人ホーム
- 3班 ②尾張と熱田神宮, ⑨名古屋港の歴史, ⑱老人ホーム

4班 ⑦東山動物園, ⑨名古屋港の歴史, ⑪公害問題

5班 ③城下町の形成, ⑨名古屋港の歴史, ⑱大須と現代

6班 ④近世の寺社と民間信仰, ⑪公害問題, ⑱大須と現代

B組

1班 ⑦東山動物園, ⑬地下街, ⑰新聞社, 徳川美術館

2班 ③城下町の形成, ⑫問屋街を歩く, ⑱大須と現代

3班 ③城下町の形成, ⑫問屋街を歩く, ⑰新聞社, NTT

4班 ④近世の寺社, ⑫問屋街を歩く, ⑰新聞社

5班 ⑫問屋街, ⑰新聞社

6班 ①見晴台遺跡, ⑪公害問題, ⑯老人ホーム, TV局

Bの5班のように、自分達だけでは3つのテーマを選べなかった班もあったが、各班から出されたテーマを参考にして、社会科のスタッフ5人で、テーマを絞り込む指導を次のように分担した。

- 都築(世史) A6班, B1班
- 原(地理) A5班, B2班
- 田中(倫理) B4, 5, 6班
- 丸山(日史) A1, 2, 3班
- 川田(政経) A4班, B3班

( )内の教科は高校の担当科目で、都築・原・川田はこの学年の授業は担当していない。まったくの助っ人である。結論部分に関係してくるが、このような教科全体での協力体制なしには、この試みは実現不可能であったろう。2月の第3週に以下の資料を各班に持たせて、20日(土)迄に、指導教官と班員全員との話し合いを持つことを科会で確認した。

【資料3】

野外学習ノートⅡ

指導教官との話し合いカード 月 日

組 班	指導教官	先生

1. 自己紹介, 各自の役割分担
2. 見学場所(午前, 午後各一箇所)について……  
自分たちで話し合ったことを先生に伝えて、先生からアドバイスをいただくこと
  - ①なぜこの場所を選んだか
  - ②何を調べたらいいのか
  - ③どんな人から何を尋ねるのか

- ④どんな手続きが必要か
3. 集合, 昼食場所, コース
- ①どこで
- ②コースの計画が出来上がっているか
4. 参考文献, 資料
- ①どんな参考文献があるのか
- ②どのように手に入れたらよいか
5. 次の打ち合せの約束
- ①いつ, どこで
- ②次回までの課題 事前学習 取材の打ち合せ 見  
学場所の了解

この話し合いカードが実際にはどの様に記入されていたか, この段階での生徒達 (実際は記入をした記録係の, であるが) の認識の程度を示すために, 一部記録しておこう。

○Bの1班

- ①なぜ, この場所を選んだか。
- 徳川美術館 もうすぐ教科書で徳川家康が出てくるから

新聞社 前から調べてみたかった

- ②何を調べたらいいのか
- ・徳川家康, 家系など
  - ・なぜ四コマまんががのっているか
  - ・いつから新聞ができたか
  - ・いままでの十大事件

- ③どんな人から何を尋ねるのか
- ・中日新聞のえらい人

- ④どんな手続きが必要か (無記入)

○Bの6班

- ①なぜこの場所を選んだか
- ・できるだけ遠い所へ
  - ・先生に言われた。(ごういん?!)
  - ・なんとなく

- ②何を調べたらいいのか
- ・どのような公害があるのか

- ③どんな人から何を尋ねるのか
- ・反対同盟の人に, めいわくしていること

- ④どんな手続きが必要か
- ・りょうかいを得る

このような5人の指導教官による各班への指導の結果, 各班のテーマと行程が以下のように決められ, 2月25日の教官会議に, 最終的な実施案として提出され, 承認された。

A組

- 1班 8人 遺跡から探る名古屋  
(見晴台遺跡, 大曲輪貝塚, 市博物館)
- 2班 7人 東山動物園と名古屋の地下街

- (東山動物園, 名駅地下街)
- 3班 7人 熱田神宮と名古屋港  
(熱田神宮, ポートビル)
- 4班 7人 市民の暮しと公害問題  
(市公害研究所, 高速道路反対同盟大川宅)
- 5班 7人 名古屋港と中川運河  
(ポートビル, 名港管理組合, 中川運河)
- 6班 8人 大須近辺と現代  
(切支丹遺蹟博物館, 大須観音, 演芸場)

B組

- 1班 8人 徳川美術館と新聞社  
(徳川美術館, 名古屋タイムズ)
- 2班 8人 城下町名古屋のなりたち  
(名古屋城, 東海銀行貨幣博物館)
- 3班 8人 NTTと繊維問屋街  
(NTT, 長者町繊維問屋街)
- 4班 7人 お菓子問屋と日泰寺  
(菓子問屋種清, 日泰寺)
- 5班 7人 パン工場と陶磁器問屋  
(長栄軒パン工場, 陶磁器問屋オーシマ)
- 6班 7人 見晴台遺跡と新幹線公害について  
(見晴台遺跡と新幹線公害原告宅)

その後, 3月4日の実施に向けて, しおりの作製と事前指導を行った。

しおりは, 1. 諸注意, 2. 集合と解散, 3. 引率者, 4. 持ち物のほか, 各班の記録係りが所定の用紙に記入した原稿から成り, 次のことを強調した。

「野外学習は, あくまでも学校生活の延長であることを忘れないように。

イ. 遅刻をしないこと。相手は約束の時間にわざわざ待っていて下さるのだから, 余裕を持って少し早めに着くように行動すること。万が一, 訪問先に遅刻をする場合は, 訪問先にきちんと電話をすること。

ロ. 訪問先では挨拶を全員きちんとすること。「おはようございます (今日は)」「よろしくお願ひします」「どうもありがとうございます」など, 気持ちよく。

ハ. 訪問先でお話をしてくれたり, 案内をして下さる人が今日の先生なのだから, きちんと聞くこと。「しおり」は土曜日提出だから, きちんとその場でメモをとること。

ニ. どんどん質問をすること。実際の現場の人は, 「生きた知識」を持っているのだから, 疑問に思うことは, 恥しげらずに質問すること。

ホ. 訪問先では, 他の人や働いている人たちの迷惑になること (騒いだり, 勝手に道具や展示物に触ったり……) は絶対にしてはいけない。

- へ. 普段禁止されている通り、あめやガムなどを食べたり、買ったりしないこと。
- ト. 地下鉄やバスの中ではおとなしくしていること。他の乗客から「いったいどこの中学生なんだ」と白い目を向けられることがないように。
- チ. 歩行中にはしゃいで、他の人や、いわんや自動車にぶつかったりしないように。」

集合と解散は次のように計画された。担任団4名と社会科の丸山・都築・川田の3名（田中は担任でもあり、原は連絡係りとして学校に待機）、他に協力を受けてくれた鈴木（理科）、辻（英語）の2名、計9名で16の班の集合・解散を確認するために、複数の班を担当する教師が出てくるのはやむを得なかった。

集合	新瑞橋	8:45	A1, B6 (丸山)
	神宮西	9:00	A3 (高須)
	名古屋	8:45	A5 (鈴木)
	東別院	8:45	A6 (都築)
	栄	8:30	A2 (長岡), A4 (川田)
		8:45	B1 (安田), B3 (川田)
	市役所	8:45	B2 (辻)
	伏見	9:00	B4, B5 (田中)
解散	今池	3:30	A1 (安田)
	名駅	3:30	A2 (長岡)
	名古屋港	3:30	A3 (高須)
	六番町	3:30	A5 (鈴木), B6 (田中)
		4:30	A4 (丸山)
	栄	3:00	B1 (辻), B2 (都築)
		3:30	A6, B5 (都築)
	伏見	3:00	B3 (川田)
	覚王山	3:00	B4 (安田)

なお集合・解散の場所はいずれも地下鉄の駅であり、具体的な場所は引率者と生徒で相談されていた。

また引率の体制は次の通りであった。

	午前	午後
都築	大須 (A6)	円頓寺, 東海銀行貨幣博物館 (B2)
田中	長栄軒 (B5)	新幹線公害訴訟 (B6)
丸山	見晴台 (A1, B6)	高速道路反対同盟 (A4)
川田	ニュー・メディアセンター (B3)	長者町 (B3)
長岡	地下街, 動物園 (A2)	地下街 (A2)
高須	熱田神宮 (A3)	ポートビル (A3)
安田	徳川美術館 (B1)	日泰寺 (B4)
鈴木	名古屋港 (A5)	中川運河 (A5)
辻	名古屋城 (B2)	名古屋タイムズ (B1)
	引率者無し A4, B4	A1, A6, B5

3月3日(木)、学年末テストは2限で終了し、3限目に図書室で、AB合同の事前指導を実施した。

社会科の田中、丸山が、それぞれ班別の野外学習の意義をもう一度確認し、計画に従って班員が協力し楽しく有意義なものとなるように、最後の注意を促した。各班の班長が出来上がった『中1野外学習のしおり』をもとに自分の班のスケジュールについて全員の前で初めて報告した。最後に、各班のメンバーと各班の引率者、集合解散の確認者との最後の打ち合わせをして、事前指導は終了した。

## 2. 当日の様子

当日は好天に恵まれた。附属の生徒は市内全域から通学しているとはいえ、所詮中学1年生で、多くの生徒が待ち合わせ場所については不安があったようだ。所定の時間よりも1時間以上も前に到着していた生徒もいたようだ。

地下鉄各駅での待ち合わせは、必ずしもスムーズには行かなかった。例えば、私が集合場所として担当した伏見の場合、鶴舞線ホームの庄内緑地公園行き、⑩番のりばとすることになっていたのであるが、2つの班で14名が集まらなければならないところ、3名が遅刻した。2人は東山線のホームで待っているのを探し出し、またもう一人は、地上の入り口で待っていた。実は⑩番乗り場というのは無かった。生徒に決めさせて鶴呑みにするのではなく、やはり、実際に出かけて見ておくべきであった。時間が丁度、通勤ラッシュとも重なるだけに、集合場所は、見通しのきく、分かりやすい目標物のある地上にすべきであった。他の場所の様子を聞くと、おおかたうまく行ったようではあるが、新瑞橋で30分以上遅れた生徒がいて、生徒達は先に出発させ、その後、教師が待っていたが現れず。その生徒は「遅くなったので、タクシーで見学先に駆けつけた」というハプニング。この生徒の家庭は共働きで、家にも連絡がつかず。当然学校に連絡してから行動すべきであったのに、徹底していなかったようだ。

私が引率したB組の5班と6班の行程表を次に示しておこう。

[B5班]	9:00伏見集合ー(地下鉄)ー9:20庄内緑地公園ー(バス)ー9:40平田住宅ー(徒歩)ー10:00長栄軒11:30ー(徒歩)ー平田住宅ー(地下鉄)ー庄内緑地公園(昼食)ー(地下鉄)ー新栄ー(バス)ー13:30オーシマ(東区榑木町)15:00ー15:30栄解散
[B6班]	8:45新瑞橋集合ー(バス)ー笠寺西門ー(徒歩)ー9:30見晴台遺跡11:00(昼食)ー(徒歩)ー笠寺西門ー(バス)ー新瑞橋ー(地下鉄)ー金山橋(先生と待ち合わせ)→(地下鉄)ー六番町ー13:30新幹線公害原告団副団長武藤さんによる案内15:20ー

(徒歩) - 15:30六番町解散

Bの5班とは午前中の行程と昼食まで共にしたが、パンメーカーの長栄軒での見学については、生徒達は次のようにレポートしている。

「①見学順序 総務課長さんと合う→事務所で資料をもらう→パン工場見学→米飯工場→菓子工場→事務所で説明を受ける。

②パン工場見学

- 行程1 : 大きな機械であった。そばでは白衣に白帽子の従業員の方が原料を入れていた。
- 行程2 : 第1発酵室は大きな箱状になっていた。
- 行程3 : 生地を再びこねていた。
- 行程4 : 再びこねられた生地は10~15分ねかせられ分割機に運ばれてそこで一定の目方に分割され丸目機に入れられそこで生地は丸められ中間発酵室に運ばれる。ここでは、分割機で生地を分割する速度とその目方を検査する従業員の方の動作がとても早く感じられた。中間発酵機で発酵している生地をさわらせてもらうと、とても温かくやわらかかった。
- 行程5 : 型づめではパンの成型をし、チョコレートやクリームなどを入れていた。
- 行程6 : 第2発酵室は第1発酵室の約2倍くらいの大きさで、ドアを開けてみると20cm位の棚になっており、発酵中の生地からゆげがたっていてとても温かそうだった。
- 行程7 : パン焼きがまは、とても大きく、パンは其中でベルトコンベアで運ばれながら焼かれていた。ここではイースト菌による発酵が止められる。イースト菌が発酵してできる炭酸ガスがパンをふくらませたり穴をあけたりする(ケーキは卵でふくらむ)。
- 行程8・9 : 焼かれたパンは、冷されてスライサーに運ばれそこで薄くきられて包装機で袋に入れられ箱詰めされる。

(以下省略) (S君)

実に細かな観察である。パン生地の温かさだけでなく、従業員の仕事を観察している目が鋭い。従業員と同じ白帽子を被っての見学は、もちろん衛生上のためではあったのだが、生徒達の見学の態度をびしっとさせてくれただけでなく、生徒達の目が、白帽子の従業員の立場にぐっと近づいて行ったことを示している。

パン工場の見学について、全体的な感想をIさんは次のように述べている。

「私達5班は、長栄軒へ行きました。長栄軒は名古屋のはずれにあり、静かなところで作っているんだなあと思いました。工場を見学させてもらい、いろいろ見てまわっていると、みんな真剣に仕事に取り組んでいて、すごいなあと思いました。

そして総務課長の広さんがおっしゃった、『うちは、だいたいが手作業でやっています。』という言葉は、今でも心に残っています。

清潔を第1に考えていて、毎月、検査をしたり、ぬきうちのつめの検査をしたり、これにはおどろきました。長栄軒は、パンだけでなく、ケーキや米飯も作っていました。米飯は、朝の9時までには作り上げないといけないので、朝6時から、作り始めるそうです。米飯もたくさん数を作らないといけないので、朝6時からなんてたいへんだなあと思いました。一つのパンを作るにも、沢山の人の手がかかっているんだなあと思いました。今回の野外学習はとてもためになりました。」

6班とは先の行程表に示したように、1時に金山橋駅のプラットホームで待ち合わせ。ほぼ時間どおりに生徒達は現れた。再び地下鉄に乗って六番町へ。地下鉄から地上に出たところで、名古屋新幹線公害訴訟原告団副団長武藤磯松氏とおちあう。

武藤氏が、六番町ロータリーの騒音表示盤、国道一号线の上の架橋などに案内・説明をして下さった後、六番町2の中村眼鏡・時計店へ。このお宅は新幹線の高架から10メートルも離れておらず、お店の御主人も加わって2階で、お話を伺った。ここでの質疑応答を、生徒達はつぎのようにレポートしている。

- 「1. どういう裁判の内容で、その近くの人、家は現在どのような設備を整えているか。国鉄がそういう設備のためのお金を出すと言うことはあるか。
- ・裁判をしたから。裁判をしなければ現在も何もしてもらっていないだろう。
  - ・簡単な防音と防振工事は国鉄が費用をもってくれた。
2. どのような公害があり、その公害をどのように防止しているか。
- ・テレビが見えなくなる、家が傾く、雨漏りがするなど。公害というのは生活自体を破壊する。
  - ・電波障害というのは、ぼーっとぼやける、薄くなる。新幹線が通ると全然見えない。
3. その振動に困る時間帯について。
- ・朝最初に通るのが6:22発、平日一日に220本、休日250本の時もあった。
4. 昔と今とはどんなふうが変わってきたか。

- ・鉄橋も鉄板に囲まれたし、防音壁もついたし、障害対策はある程度進み、外部からののは和らいだ。
- 5. 新幹線の速度はどの位か。
  - ・机で字が書けないくらい。最初120ホンあったのが、今では80ホンから90ホンまで下がっている。六番町付近において、上りは約80キロ、下りは220キロくらい。
- 6. 今も困っている公害は。
  - ・騒音、振動、電波障害など。
- 7. 年々騒音で困る家の比較。
  - ・基本的には変わらない。」

新幹線が通過するたびに、弱震から中震程度に揺れる部屋での説明、質疑を1時間位していただいた。そのあと歩いて三番町付近の公園まで行き、スピード測定を行った。その感想を生徒はこう書いている。

「ぼくが一番印象にのこっているのは、新幹線の時速はかりです。わざわざ走っているところまでいってはいったのです。はかり方はあんがいかんたんで、だんだんおもしろくなってきます。公害のほうは中村さんのおたくへいって、どのくらいゆれるのか、体験しました。それはすごいゆれで、震度3くらいでした。一瞬「わあー。じしんだあー。こわいなー。」と思いました。」(O君)

「新幹線のスピードをたったの5分はやめるといっただけで、騒音や小さな地震のような震動が前よりもいっそうひどくなるなんて、まったくひどい話です。それでいて、なんの処置もしてくれない!『お役人に言わなくては(裁判にしなければ、裁判所の方からは)何もしてくれない!』黙っていても始まらないのだ!ということを教えられました。

新幹線は、はやくてとても便利で良いものだけど、その便利さによってめいわくしている人もいるのだということを考えてもらいたいと言われました。今回、あの小さな地震のような揺れを体験して、本当にびっくりしました。緑がたくさんあって静かな街に住む私には、とても良い体験でした。」(Sさん)

以上、当日の様子については、自分が引率した班についてしか触れられなかった。生徒達の学習ぶり、見てきたこと、聞いてきたことについては、上にも引用した『88 野外学習報告集』を参照して欲しい。

解散は3時から4時半位の間で、地下鉄の各駅を中心に行われた。陶磁器の卸問屋に行った班(Bの5班)が、社長さんの熱心な説明が長引いて、予定よりも少し遅れた程度で、たいした事故もなく無事に終了した。

### 3. まとめとして

3月4日に実施した後、当日メモがわりに携帯させた『しおり』を、2日後の土曜日までに提出させた。かなり詳しく書き込んでいる生徒と、殆んど無記入の生徒との落差は大きく、野外学習そのものへの参加の姿勢の違いが読み取れた。

その後、終業式までの2週間余りで、『88 野外学習報告集』の作製が行われた。各班の班長または記録係りが、午前中の見学場所・見学内容・質疑、午後の見学場所・見学内容・質疑といった形式で、B4の用紙4枚程度の手稿を提出した。また全員がB5の半分の用紙に感想を書き、それらを写真印刷した『88 野外学習報告集』(全146頁)が印刷されてきたのは4月半ば過ぎであった。

冬休みを利用した社会科の教師達での見学コース・場所の出し合いから数えれば、4ヶ月の間の出来事であった。この中1班別野外学習への取り組みがどのような意味を持っているのか、さらに有意義なものとするためには、どのような点が問題であったのか、最後にまとめとして考えてみたい。

#### ①カリキュラムの中での位置

現行学習指導要領では、世界地理先習であるから、 $\pi$ 型を遵守すれば、「身近な地域の学習」という単元は、2年生の1学期初めが順当である。本校が中1野外学習を最近ではおおむね、1年生の3学期に実施してきたのは、この様な条件を念頭に入れてであった。1年生の最後に実施しておけば、その成果を「身近な地域の学習」に置き換えることが出来るし、あるいはフィールド・ワークの方法と言うことで、つなげることも出来る、と考えていた。

ただし、今回のような方法で、今回のような時期に、準備・実施することが最善であるかどうかは問題である。本校は、3学期は中・高の入試(それぞれ一次選抜と二次選抜がある)があり、さらに学年末としては必然的な進路指導や成績処理、卒業式準備などの仕事が集まっている。学級担任としての仕事や分掌上の仕事に忙殺されてしまう時期である。そういう中で、社会科の5人は当然と言えば当然であるが、他に、全面的に協力してくれた1年生の担任団、その他の協力者の忙しさは想像以上のものがあつたに相違ない。あとで触れるように、準備段階や礼状を出す段階などで、もっと生徒達を動かす必要があつたり、当日の集合場所、行程などを入念に詰めておく必要があつたりするのなら、3学期という時期が最善であるかどうかは、再考する必要がある。

世界地理先習、 $\pi$ 型学習の問題も含めて、今後検討して行く必要がある。

## ②グループ別という方法

今回の試みの最大の目的は、グループ別に、少人数で動くという点にあった。

従来、2学級全員で動く場合には、全員で見学できるかどうかという点で、コース設定も限定されてくるが、それだけに決定してしまえば、後の準備は比較的簡単であった。生徒の掌握も先ず問題はないし、事後指導も、共通の見聞をしているだけに、やりやすい面が多い。

グループ別で動くという点での利点はどこにあったのだろうか。

## イ. 新しい見学先が開けた

すでに触れたように、新幹線訴訟の原告団の人の家に上がり込んだり、高速道路反対同盟の中心になっているお医者さんの診察室で、膝を突き合わせてお話を伺ったりすることは、少人数だからこそ実現できた。その他の見学先でも、市の公害研究所、大須演芸場の舞台裏、陶磁器の卸問屋さんなどを始めとして、少人数だからこそ受け入れてくれたところが多い。

逆に言うと、博物館や徳川美術館などのように、団体見学の多いところは、事前打ち合わせを周到にしておかないと、少人数の利点が生かされないという事になってしまう。

## ロ. 移動も小回りがさく

市バス・地下鉄の1日乗車券を利用したわけであるが、地下鉄は比較的本数も多いし、バスによる移動よりも早い場合も多い。そう言う意味では、地下鉄の駅により近いところを選ばせるように指導したほうが良いようだ。

## ハ. 野外学習をしているという実感・緊張感

バスによる団体行動では、どうしても「先生に連れて行ってもらう」という意識が拭いがたい。たとえ予約は教師の方でした場合でも、決められた時間までに自分達で行かなくてはならないという意識は、野外学習をしているんだという実感・緊張感を高めたように思う。

ところが、これらのグループ別行動の利点は生かされたかどうか。

上記イで触れたように、少人数であるが故に可能であった訪問先が多かったのも事実であるが、その事がもっと意識されて、新しい見学先を開発して行く必要がある。またハの直接的な参加意識という点では、コース設定の段階から、礼状などの事後処理まで含めて、もっと生徒達に主体性を発揮させ、教師は見守るところまで行かないと、本物とは言えないだろう。以上が、第1回の問題点と言えよう。

グループに関しては、どのようにグループは作られ

たのかを触れておかななくてはならない。A組では、担任教師が作った3学期の生活班がそのまま使われた。B組では、学習第1で、仲良しグループを解体した別個の班が作られた。従って、他の班のスケジュールや行き先を気にしている傾向は、当初Bの方に強く見られたが、スケジュールなどが本格的に決まってきたからのまともには、そうクラスの差は無かったようだ。

## ③テーマの決め方

すでに述べたように、各班のテーマ、コースは教師が用意した18のテーマの中から選ぶ、というのが基本であった。結果的には、B組の徳川美術館とNTTが例外で、その外は全部、18のテーマの中に納まってはいる。しかしながら、各班のテーマの一貫性という点では、少し物足りない。午前と午後の見学先の結びつきがあるもの(Aの1班、4班、Bの2班など)は、むしろ例外的ですらある。午前と午後は余り関係がなくてもよし、という指導をした結果に過ぎないが、出来れば一貫したテーマを追求させたかった。

テーマ、コースについては文書を配るだけでなく、教師側の意図が十分に説明される機会が必要だった。その上で、班での話し合いを2~3時間は保障したかった(実際は、プリントを見せての話し合いが、1時間程度だった)。

## ④訪問先の決定

テーマの決め方と同様の問題があった。もう少し生徒達の調査、家庭での親からの情報提供などを入れて行く時間的な余裕が欲しかった。そうすれば訪問先に自分達で電話をするなり、手紙を書くなりしての、予約を取り付ける苦勞を体験させられたのではないかと。それが更に野外学習の緊張感を高め、経験を豊にさせるというものなのだろうが、やはり「時間的制約」の中で教師主導になってしまった。

## ⑤教師の指導のあり方

グループやテーマの決定に関する問題として、すでに教師の指導のあり方についても触れてきたわけだが、それらは、事前学習にどれだけの時間をかけることが出来るかにかかっているとと言える。生徒達に主体的にテーマやコースを決定させるためには、それだけの予備知識と時間的な保障を与えてあげなければならない。

ここでは、いま一つ違った観点から、教師の指導の問題を考えてみたい。実施日の引率の問題である。今回、原案が会議で論議されたとき、生徒の訪問に引率教官のいないグループ(午前2グループ、午後3グループ)があることを心配する声が、2、3あった。社会科、実施学年の担任団以外の協力が得られなければ、引率教官なしのグループはもっと増えたところであっ

た。しかし、教師側の心配は取り越し苦労のようであった。教師の引率なしで活動させる方が、かえって生徒達の準備も周到になり、教師への甘え・依頼心がなくなる。今回は、引率者を必要条件としている場合を除いて、出来るだけ引率なしの方向で実践してみるべきだろう。

#### ⑥しつけの問題、生きた道徳教育として

訪問先での挨拶がきちんと出来るかどうか、説明者の話をきちんと聞くことが出来るかどうか、靴やスリッパの整理がきちんと出来るかどうかなど、事前に予想されたしつけの問題は沢山あった。これらは、前日の事前指導の際にも注意したところであったが、予想していなかった事態があった。

常識で考えれば当然の事なのに、新幹線公害の高架から10メートルの眼鏡店にあげていただいた際、2階のその部屋には暖房がなかった。窓際には陽が差し込んでいたのだが、女子の生徒達が座ったところは入口近くで、すきま風でも入ってくるのか、気が付いたときには、2人の生徒がコートを着たまま。引率者としてとても恥しい思いをさせられたが、とっさに「常識、

が發揮できない生徒がいるということである。

乗り物の中での態度なども含めて、少人数のグループであるからこそ、注目されてしまう。生きた道徳教育、現実の大人社会の中での生きたモラルが問われる、という絶好の体験にもなるようだ。

#### ⑦事後指導、発表会の必要

これは①のカリキュラム上の位置に関わることなのだが、事後指導として全員での発表会を持てなかったことは残念である。終業式までの授業の中で、半数くらいの班には感想を述べさせたが、それも極めて簡単にしか出来なかった。2年生になって、たまたま地理を私が持ち上がったので、授業中で、残りの班の発表を試みたが、クラス替えがあって、なんとなくチグハグであった。あとは『'88 野外学習報告集』が出来てから、よく読んでおくように、という指導しか出来なかった。

それぞれの班の見聞、体験には得がたいものがあるだけに、実施数日後には、やはり、全体での発表会をやるべきであったと悔やまれる。